

## 第 13 分科会 運営概要 連携・接続

【研究課題】 家庭・地域等との連携と異校種間接続の推進における校長の在り方

- 【研究の視点】
- 1 家庭・地域等と連携し、特色ある教育活動を展開する学校づくりの推進
  - 2 成長の連続性を生かした異校種間接続の推進

### I 分科会研究協議の運営計画

子どもたちの望ましい成長を促すためには、学校と家庭・地域が一体となって取組を推進していく必要がある。各地域では、人口減少の急激な進行や高度情報化の進行が、地域コミュニティの弱体化、人々のつながりや支え合いの希薄化などにつながり、本来あるべき地域の教育力の低下をもたらしている。そのため、規範意識や他者とのコミュニケーション力が十分に育たず、いじめ等の問題行動の要因の一つになっている。一方で、「小1プロブレム」「中1ギャップ」と呼ばれる異校種間の接続上の課題も依然として存在する。いじめや不登校を未然に防ぎ、長いスパンで、子どもたちの健全な成長を積み上げていく異校種間の連携をより一層推進する必要がある。

これらの課題は、学校現場のみならず社会総掛かりで対応する必要がある、望ましい子どもの育成及び、生徒指導上の課題へ対応するための地域基盤を再構築や異校種間連携を推進する取組が求められている。本分科会では、そのための具体的な方策を探り、推進する校長の役割を明らかにする。

#### 予想される話合い

「視点1：家庭・地域等と連携し、特色ある教育活動を展開する学校づくりの推進」

- ・関係機関と継続的につながる方策と経営ビジョンの共有化について
- ・教職員の多忙感を払拭し、達成感を得る取組の在り方
- ・教育課程の位置付けと時数確保、活動内容の工夫改善の方策と人材育成

「視点2：成長の連続性を生かした異校種間接続の推進」

- ・校種間による経営ビジョンの共有化のための校長の役割
- ・学びをつなぐ教育課程編成の在り方と教職員の意識改革
- ・地域の特性を生かした幼保小中連携の方策と課題

### II 全国大会の成果と道内の現状

～平成 29 年度（全連小佐賀大会）までの成果～

○地域連携、異校種間接続においても目標と活動意義の共有化が大切である  
△多忙感を伴わない継続した取組と働き方改革  
△異校種間に共通する子ども像の設定や連続した教育課程編成の在り方

～道小教育研究稚内大会の成果～

- ・基盤づくり～経営ビジョンの見える化を図り、保護者、地域と共有する
- ・体制づくり～担当部署を明確にし、人材育成とともに、負担軽減を図る組織的な動きを工夫する
- ・実践と検証～教職員の達成感をもたせ、当事者としての意識改革を推進する

全連小研究協議会北海道大会（函館市）

次の三つ観点から、全国各地の地域連携と異校種間接続を再構築してみる。

- ① 基盤づくり→理念、目標、目指す子ども像の共有化の方策
- ② 体制づくり→組織づくりと人材育成、教育課程編成の時数確保と場の構成
- ③ 実践づくり→子どもの育ちと達成感の醸成、成果の共有と改善方法

### III 研究発表の概要

#### 視点1 研究発表者 三重県 桑名市立大和小学校 杉浦 裕一 校長 ～持続可能な「ともに」をめざして～

学校と家庭・地域が「Win-Win の関係」になる取組を、子どもの側から見た①地域を生かす学習、②地域で生きる学習の2つに分類して校長の役割を検証する。校長は、地域連携のコーディネーターであり、学校現場の負担軽減のバッファー役でもある。また、子どもたちに「未来の社会形成者として意識」を醸成する中長期の展望をもてるプロデューサーでもある。この観点から、実践報告の成果と課題を明らかにし、具体的な校長の役割に迫る。

#### 視点2 研究発表者 北海道 別海町立中西別小学校 古森 康晴 校長 ～幼児教育との連携や義務教育9年間を見通した 小中学校の接続など異校種間のつながり～

異校種間接続においては、大切なポイントがある。例をあげると「学びをつなぐ」「育ちをつなぐ」「地域をつなぐ」「評価をつなぐ」という4点などである。義務教育学校での取組、コミュニティースクールと関連した小中一貫教育や郷土学習、キャリア教育の取組等、地域の特性をおさえた実践報告を通して、実効性のある校長の役割を検証する。

### IV 協議の流れ

|    |   |             |
|----|---|-------------|
| 1  | 開 会：日程確認（10分）   | 13:00～13:10 |
| 2  | 趣旨説明（10分）   | 13:10～13:20 |
| 3  | 研究発表視点1・2（40分）  | 13:20～14:00 |
| 4  | グループ協議（10分）<br>・記録シートに質問、感想を書き込む等   | 14:00～14:10 |
| 5  | 全体の場で研究発表の質疑（20分）   | 14:10～14:30 |
| 6  | 休憩（10分）   | 14:30～14:40 |
| 7  | グループ討議（55分） KJ法を用います。<br>討議の柱 1 地域の強みを生かした基盤づくりと体制づくりの方策<br>2 異校間接続における意識改革と教育課程編成の方策 | 14:40～15:35 |
| 8  | 論点カード作成（5分）   | 15:35～15:40 |
| 9  | 全体協議（30分）<br>視点1について協議内容を発表 2グループ<br>視点2について協議内容を発表 2グループ                             | 15:40～16:20 |
| 10 | 研究協議のまとめと全体交流（20分）  | 16:20～16:40 |
| 11 | 連絡・閉会   | 16:40～16:45 |

※名刺6枚程度を持参ください。

※参加者は、自校の地域連携や異校種間連携を確認し、成果と課題を発言できるように準備をお願いします。

特に、資料は必要ありません。なお、記録シートは道小HPに事前に掲載します。

※グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿(座席表)を掲載しますのでご確認ください。